

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
510	高崎健康福祉大学薬学部細胞生理化学研究室
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and breast cancer risk in Japanese women: the Miyagi Cohort study. 日本人女性におけるアルコール摂取と乳ガン発症の危険性：宮城県コホート研究	
執筆者	
Kawai M, Minami Y, Kakizaki M, Kakugawa Y, Nishino Y, Fukao A, Tsuji I, Ohuchi N.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Breast Cancer Res Treat. 128(3):817-825 (2011)	
キーワード	
アルコール、乳癌、コホート研究、葉酸	
要旨	
<p>欧米の研究ではアルコール摂取と乳ガン発症の危険性との関連性が指摘されているが、日本人を対象とした疫学研究はほとんどない。本研究では、日本人女性を対象としてアルコール摂取と乳ガン発症の危険性との関連について、前向きコホート研究で検討した。総数で 19,227 名の女性 (40-64 歳) について 1990 年から 2003 年まで追跡調査を行った。追跡調査された 246,703 [人年] 中、241 名が乳ガンを発症した。ハザード比 (HR) は Cox 比例ハザードモデルで評価した。</p> <p>乳がん発症に関連すると考えられる要因や食事摂取と関連した要因を補正した後に得られた結果の HR は 1.0 (95%信頼区間 0.74-1.34) であった。また、1 日当たりのアルコール摂取量との関連では、多量飲酒者 (<math>\geq 15</math> g/日) と乳ガン発症危険性との関連性は認められなかった (HR=0.87, 95%信頼区間 0.40-1.91)。さらに、飲酒開始年齢や飲酒頻度と乳ガン発症危険性との関連も認められなかった。閉経前後、女性ホルモン剤使用の有無で層別化した解析では、ホルモン使用者の多量飲酒者 (<math>\geq 15</math> g/日) で乳ガン発症危険性が高い傾向にあったが、統計的には有意でなかった (HR=1.67, 95%信頼区間 0.17-16.73)。しかし、葉酸摂取量で層別化した結果 (<math>&lt;219</math>, <math>\geq 219</math> <math>\mu</math>g/日) で、葉酸摂取が少ない群で 1 日当たりのアルコール量が増えるにつれて乳ガン発症の危険性が上昇する傾向を認められた (p=0.09)。</p> <p>本研究の結果は、日本人女性でアルコール摂取量と乳ガン発症の危険性との関連はないことを示している。一方、葉酸摂取のような栄養要因はアルコールによる乳ガン発症危険性に影響すると考えられる。アルコールは、細胞の DNA 障害を修復する際に利用される葉酸に拮抗する作用を持つ。多量飲酒による葉酸不足によって、障害を受けた細胞の修復が十分に出来なくなり発ガン性が増強され、葉酸摂取量の低い集団での飲酒は、より発がん効果が高くなると考えられる。</p>	